

ポスト SGH を考える

栃木県立佐野高等学校 グローバル教育統括アドバイザー

東京海洋大学グローバル教育研究推進機構 教授 小松俊明

全国 123 校の SGH 指定を受けた高校が順次 SGH 事業を終えている。指定校 123 校のうち、最後に SGH に指定された全国の 11 の高校にとって、いよいよ SGH 事業のゴールが見えてきた今、現場で教鞭をとる教諭にはそれぞれの立場と役割、過去 4 年間の経験を踏まえて、生徒たちのために「ポスト SGH」のあり方を具体的に考えることをお願いしたい。

まず「ポスト SGH」という言葉について誤解はないと思うが、念のために簡単に説明すれば、「SGH 事業の後」「SGH 事業の次」にくるもの、という意味である。SGH 事業は教育改革の 5 か年計画であったが、「ポスト SGH」とは、教育改革に関する「次の 5 か年計画」を策定することを意味している。それを考える際、重要なことがあるため、本稿ではそこを中心に論じたい。

最初にやるべきことは、「SGH 事業の総括」である。まだすべてが終わってはいないが、過去 4 年間の実績を検証してほしい。やると決めたが十分にやれなかったこと、逆に期待以上に成果を出せたこと、それをクリティカルに自己評価するのである。その際は数字だけの検証にとどまらず、心象や満足度のような当事者の思いに寄り添った評価をしてほしい。もちろん、教育のプロである以上、やるだけのことはやったというだけのプロらしからぬ甘い自己評価にならないよう、くぎは刺しておきたい。

学校の現状の実力評価も大切である。どのようなリソース(人的、物的な資産から、ブランド、伝統、理念のようなものまで)があるか、その強み、弱みをできるだけ正確に把握することが大切である。企業が事業戦略を考える際の基本である SWOT 分析(外部環境や内部環境を強み(Strengths)、弱み(Weaknesses)、機会(Opportunities)、脅威(Threats)の 4 つのカテゴリーで要因分析し、事業環境の変化に対応した経営資源の最適活用を図る経営戦略策定方法のこと)を SGH の総括に活用したらいい。

SGH の総括を早々に終えたら、いよいよ「ポスト SGH」という名の「教育改革 5 か年計画」を考えることである。これはゼロから考える必要はない。SGH 事業の構想を引き継ぎ、どのように発展させていくか、5 年前と比較した外部環境と内部環境の変化を踏まえて、もう一度、教育内容の「集中と選択」を練り直すということである。予算がなくなったからやらない、もしくは妥協した産物になるのでは、見るからにそこには創意工夫が足らず、情けない状況が露呈してしまう。公金を使って教育改革に取り組んできた SGH 指定校は、その状態にだけは陥ってはいけない。SGH 事業で取り組んできた実績とノウハウの蓄積を活用し、さらには現場の教師が飛躍的に能力の向上を実現したことにより、取り組むあらゆることに効率化やコスト削減を実現してほしいのである。つまり、「ポスト SGH」は SGH 事業をスケールダウンするのではなく、SGH 構想を大きく上回る成果を達成する発展的な計画が必要なのだ。その出発点を間違えてはいけない。高校生や保護者、外部協力者、そして高校を取り巻く地域社会は、高校教育の現場が奮起することに大いに期待している。教師のやる気を生徒たちはよく見ている。難しい挑戦に挑む高校教師を支え、今後も応援していきたい。